

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス  
選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ  
掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス  
選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛名ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之  
ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス  
其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ  
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決  
ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ

男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシ  
テ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任  
狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同トモノハ年  
長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前  
任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十六條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朝讀シ選舉  
人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭  
セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申  
立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス  
可シ

第二十八條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内コ之ヲ  
市長ニ申立ツルコトヲ得(第二十五條第一項)

市長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ハラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得  
 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又ハ被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ  
 第二十九條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二款 職務權限及處務規程

第三十條 市會ハ其市ヲ代表シ此法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十一條 市會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 市條例及規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ掲グル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、市税及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 六 市有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並質入書入ヲ爲ス事

七 基本財産ノ處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 市有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十 市吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十二條 市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ關スル市吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十三條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

第三十四條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十五條 市住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及市會議員選舉ノ效力(第二十八條)ニ關スル訴願ハ市會之ヲ裁決ス市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十七條 市會ハ毎曆年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互選ス  
第三十八條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ  
故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ市會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ  
第三十九條 市參事會員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十條 市會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ  
又ハ市長若クハ市參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ召集ス可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知  
スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ  
會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市參事會員ヲ市會ノ會議ニ召集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條 市會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得又但同一ノ議事ニ付  
召集再回ニ至ルモ議員半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若  
シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決  
ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除外ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代

テ議決ス

第四十四條 市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ無効  
投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名  
ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤  
シテ其二名ヲ執リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以  
テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推薦ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議  
場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長  
ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條 市會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ頗未並出席議員ノ氏名ヲ記錄  
セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

市會ハ議事録ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告ス可シ

市會ノ書記ハ市長之ヲ選任ス

第四十八條 市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科スヘキ過怠金貳圓以  
下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長 一名

二 助役 東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三 名譽職參事會員 東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名

助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ増減スルコトヲ得

第五十條 市長ハ有給吏員トス其任期ハ六年トシ内務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條 助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

第五十二條 助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス

助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條 市長及助役ハ其市公民タル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十四條 名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス  
名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ選舉セラレ、コトヲ得  
若シ副員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十五條 市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ムルコトヲ得ス同條第四項ニ掲載スル者ハ名譽職參事會員ニ選舉セラレ、コトヲ得ス  
父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス  
市長及助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十六條 市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
第五十七條 名譽職參事會員ノ選舉ニ付テハ市參事會自ラ其効力ノ有無ヲ議決ス  
當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキ

ハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條未項ヲ適用ス

第五十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス  
收入役ハ身元保證金ヲ出ス可シ

第五十九條 市ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス  
第六十條 凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京市京都市大阪市ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十三條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但東京市京都市大阪市ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京市京都市大阪市ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得  
東京市京都市大阪市ハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス

第六十一條 市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クヲ得其委員ハ名譽職トス  
委員ハ市參事會員又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市公民中選舉權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選舉シ選舉權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選舉シ其他ノ委員ハ市長之ヲ選任ス

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
第六十二條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條 市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラル、コトヲ得  
市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程  
第六十四條 市參事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ  
一 市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルコトハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指

- 揮ニ由リ事由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
  - 二 市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
  - 三 市ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
  - 四 市ノ權利ヲ保護シ市有財産ヲ管理スル事
  - 五 市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及拾圓以下ノ過怠金トス
  - 六 市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
  - 七 外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他處若クハ人民ト商議スル事
  - 八 法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料手数料市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
  - 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依リ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 第六十五條 市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得

其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ

市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十六條 第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得ザルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス

第六十七條 市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ滯滞ナキコトヲ務ム可シ

市長ハ市參事會ヲ召集シ之ヲ議長トナル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

第六十八條 急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第六十九條 市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受ク

ルコトヲ得

九十

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條 市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ニ掌ル

第七十一條 書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條 區長及其代理者(第六十條)ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

東京市京都市大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌ス

前項ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

區收入役ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌ス

第七十三條 委員ハ(第六十一條)市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關ス

シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條 市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

東京市京都市大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ市ノ負擔トス

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償及報酬額ハ市會之ヲ議決ス

第七十六條 市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス若シ之ヲ

許可ス可カラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受タルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ府縣參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第七十七條 市條例ノ規定ヲ以テ市長其他有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ議決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣都市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償ハ總テ市ノ負擔トス

第四章 市有財産ノ管理

第一款 市有財産及市税

第八十一條 市ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ非ス

第八十二條 凡市ノ財産ハ全市ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス

但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ其市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 市住民中特ニ市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ市條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十二條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 市會ハ市ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 市有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ認可ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 市ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラレ、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令ニ



依り市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ市税(第九十條)及夫役現品(第一百條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得

九十四

第八十九條 市ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十條 市税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ市限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十條第一項第二)及従前ノ區町村費ニ關スル細則ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ料料壹圓九拾五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

料料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ市參事會之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上市内ニ滞在スル者ハ其市税ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條 市内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ市内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及市ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ市外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ市税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ市税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲グル物件ハ市税ヲ免除ス

- 一 政府、府縣都市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外市税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課スヘシ

市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修繕及保存ノ費用ヲ負擔スヘシ但其一區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ニ其費用ニ充ツ可シ

第一百條 市税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ市長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一百一條 市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學術、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百二條 市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)市税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市

參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第一百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市税ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第一百四條 市税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ市參事會ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内賦稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第一百五條 市税ノ賦課及市ノ營造物、市有財産并其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ市參事會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニアラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第一百六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムテ

得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

第二款 市ノ歳入出豫算及決算

第七條 市參事會ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第八條 豫算表ハ會計年度前市會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第十條 市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第二百一十一條ヨリ第二百二十三條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令(第九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ市長又ハ代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故障アルモノトス

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第百十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用  
(第百九十九條ニテ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造  
物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設ケルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得  
第百十四條 前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ關スル規則ニ依リ市參事會ヲ管理ス可シ  
但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス  
但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百十六條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府  
縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得市ノ行政ニ關スル  
訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シ  
テ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所  
ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可  
シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス  
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當

該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ市ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百十七條 監督官廳ハ市行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滯セサルヤ否ヲ監視  
ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ  
徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百十八條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ  
定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承諾セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其  
支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十九條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ  
之ヲ議決スヘシ

第百二十條 内務大臣ハ市會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三  
ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集會スル迄ハ府縣參事會市會  
ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 市條例ヲ設ケ並改正スル事
- 二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更  
ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
- 二 市特別税並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
- 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
- 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
- 三 市有不動産ノ賣却讓與並質入ヲ爲ス事
- 四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九 第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十四條 府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ罷責及過怠金トス其過怠金ハ貳拾五圓以下トス追テ市吏員ノ懲戒法ヲ設ケル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 參事會ノ懲戒處分(第六十四條第二項第五)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 本條第一項ニ掲載スル市吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務學ヲササル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十三條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ノ解職ニ係ル裁判ハ上奏シテ之ヲ執行ス  
監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セザルコトヲ得

第七章 附則

第二百二十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情况ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依  
リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第二百二十七條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政  
裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百二十八條 此法律ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ超エタル事アルカ爲メ市ニ對シテ賠  
償スヘキコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ  
之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ  
府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務并  
市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第二百二十九條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ  
第三百十條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ  
第三百十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏  
大臣之ヲ告示ス

第三百二十二條 明治九年十月第三百十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明  
治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會  
法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十  
五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス  
第三百二十三條 内務大臣ハ此法律實行ノ責メニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可  
シ  
此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市京都市大阪市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事  
項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ  
受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルハ此法律  
ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラズ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉モノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物并町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニアラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村內ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額貳圓以上ヲ納ムル

者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニアラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且ツ治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村內ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齡滿六十歲以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
- 六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

第九條 町村ノ公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモ

ノトス

町村公民タル者身代限處分中又ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ拘留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス

町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルハ其職務ヲ解ク可キモノトス

### 第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得町村條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルヲ得又且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ルヘシ

## 第二章 町村會

### 第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村

人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルヲ得

- 一 人口千五百未満ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ 議員十八人
- 一 人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ 議員二十四人
- 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラレ、者(第八條第三項第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅ムル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラレ、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニアラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二



名以上アルルキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ  
選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢察官及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ニ非スシテ他人ノ爲ニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルト

キハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中開員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上開員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製スヘシ選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村

長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス  
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ當選ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ  
各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町

村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス  
第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス  
選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之

ヲ受ケ封緘ノ後投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス  
第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス

其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ  
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
  - 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
  - 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
  - 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トスヘシ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定

メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ  
分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム  
選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル  
第二十六條 議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年  
長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前  
任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終タル後之ヲ朗讀シ選舉人  
名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭  
セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ  
其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ  
町村長ニ申立ツルコトヲ得(第二十七條第一項)町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告  
シ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ハラヌ郡參事會ニ付シテ處  
分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セザ  
ル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム

第三十條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者  
アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉  
權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件并從前特ニ委任セラ  
レ又ハ從來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ并改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲グル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手数料、町村稅夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定  
ムル事
- 六 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓渡并賃入書入ヲ爲ス事

- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事
- 十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
- 第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ關スル町村吏員ノ選舉ヲ行フ可シ
- 第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス
- 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得
- 第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ
- 第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否、並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選舉ノ效力(第二十九條)ニ關スル訴訟ハ町村會之ヲ裁決ス
- 前項ノ訴訟中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス
- 町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴訟シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴訟シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

- 本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴訟ヲ爲スコトヲ得
- 本條ノ訴訟及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指名若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス
- 第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理者タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ
- 議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ
- 第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得
- 第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ召集ス可シ其召集并會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ
- 第四十三條 町村會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス
- 第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議々決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一條ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ攪斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末并出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ  
町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金貳圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス  
父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ緣故アル者其選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラ

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 町村ノ情况ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得又其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得又其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收メ支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員并使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條

百二十二

町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十四條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレ、コトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス  
町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ノ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
- 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス
- 六 町村ノ公證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事
- 八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方管警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニアラス
- 二 浦役場ノ事務
- 三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得  
本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町長會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得  
助役ハ町村長故障アルキ之ヲ代理ス助役數名アルキハ上席者之ヲ代理 可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ臨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ并其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス  
常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナ



ルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス  
第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ  
臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモ  
ノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及供用スルモノトス但特ニ民法上ノ  
權別ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル  
者アルキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ  
町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ  
之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ  
係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)

ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ  
但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認  
許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依  
テ賦課セラレ、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)并科料、過怠金其他法律勅令ニ  
依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅(第九十條)及夫役  
現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用  
料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

- 一 國稅府縣稅ノ附加稅
- 二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例  
トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收ス  
ルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使料用、手数料(第八十九條)特別稅第(九十條)第一項第二ニ及從前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料壹圓九拾五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナント雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ハ町村稅ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村稅ヲ免除ス

- 一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限り免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔スヘシ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第一百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ

其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ従前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス  
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)町村稅(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得  
納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之レヲ町村長ニ申立

ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス  
第百五條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産并其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニアラズ  
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ従前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ  
定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第百七條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ并地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其騰寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例

月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第五項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直チニ之ヲ町村長ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第百十三條 決算報告ヲ爲スルハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ開キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ

第二類 第二章 町村制

組合ヲ設グルコトヲ得  
法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設グルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ議定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百二十四條 內務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事

二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲナス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一万以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニアラス

二 町村特別稅并使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)

三 町村有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事

四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依リ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ證實及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ拾圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ貳拾五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコトヲ得

百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタルヲアルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

百三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村及町村會ノ職務并町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

百三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ、百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行スヘシ

百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法、第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號

百四十一  
布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三條布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス  
第三百三十九條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

●市町村行政事務監督 (明治二十五年五月內務省訓令第三百四十八號)

市町村行政事務監督ノ儀ニ付テハ是迄示達シタル儀モ有之各地方共漸次監督ノ方法ヲ設ケ實施シ來候處客年來已ニ郡制府縣制ヲ實施シタル地方モ不少又其他ノ府縣ニ在テモ不遠施行セラルヘキニ付從テ其下級團體タル市町村行政事務ノ監督ハ此際一層之ヲ嚴密ニシ以テ其事務ノ整理ヲ計リ新制度ノ實効ヲ擧クルコトニ注意セラル可シ今其監督ヲ行フヘキ事項ノ要領ヲ左ニ列擧ス其方法順序ノ詳細ニ至テハ各地方適宜酌量スルコトアル可シ

- 一 市町村ノ事務ハ國及府縣郡ノ行政ニ係ルモノハ勿論市町村ノ共同事務ニ屬スルモノト雖モ其事務報告ヲ徵シ之ニ依テ其事務ノ整理ヲ檢察シ其違法若クハ不當ナルモノアルトキハ夫々相當ノ處分ヲ施シ又將來ニ向テ訓戒ヲ加フルコトアルヘシ依テ各府縣ニ於テ市町村事務報告例ヲ定メ確實ノ報告ヲ徵スルヲ要ス尤モ定例報告ノ外ト雖モ必要ノ時ハ隨時報告ヲ徵スルコトアルヘシ又天災時變其他重要ノ事付アルトキハ監督官廳ノ命令ヲ候タスシテ臨時報告スヘキハ當然ノ事ナリトス
- 二 市町村ノ行政事務ヲ監督スル爲メニ監督官廳ハ各市町村ノ巡視ヲ行フヘシ其巡視規程

- ハ各府縣ニ於テ適宜規定スルヲ要ス
- 三 市役所町村役場事務ノ整理ヲ計ルニハ其處務ノ順序一定ノ例式ニ依ルヲ要ス各府縣ニ於テハ其處務規程ノ準則ヲ示達シ各市町村ヲシテ此準則ニ依リ適宜之ヲ設定シ第一次監督官廳ノ認可ヲ受ケシム可シ
- 四 市町村會計ノ整理ヲ計ル爲メニ出納帳簿ノ例式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ可成精密明白ノ簿式ヲ制定シ且出納檢閱例規ヲ設ケ漸次精密ノ檢査ヲ施行ス可シ
- 五 市町村長及收入役等交代ノ節事務引繼ノ事ハ最慎重ヲ要スルニ付特ニ視察ヲ加ヘ時宜ニ依リ主任官ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ其事務引繼ノ順序ハ豫メ各府縣ニ於テ一定ノ例ヲ設ルヲ要ス
- 六 市町村ノ事務ヲ整理スルニハ簿冊ノ種類員數樣式ヲ一定スルヲ要ス依テ各府縣ニ於テ適宜其準則ヲ定メ漸次施行スヘシ
- 七 市町村ノ事務ハ最簡易誠實ヲ主トシ虛飾ニ流レス繁細ニ涉ラサルヲ要ス其經濟ハ勤儉ヲ守リ勉テ資力ヲ充實スルノ法ヲ講シ冗費濫出ノ弊ヲ防制スヘシ
- 八 市町村基本財産ハ之ヲ維持保存シ之ヲ殖増スルヲ得ヘキハ勿論市町村經濟ノ許ス限リハ力メテ之ヲ蓄積セシメシムルコトヲ誘導スルヲ要ス然レトモ其方法宜キヲ得サルトキハ却テ負擔ヲ加重シ經濟上ノ不利タルヲ免レス宜ク特ニ注意ヲ加フ可シ
- 九 市町村行政事務ノ舉否ハ主トシテ市町村長ノ責任ニ在リ故ニ其選任ニ付テハ最慎重ヲ



加フヘク特ニ市長ハ其任重ク裁可ナモ仰クヘキニ付其薦ヲ誤サル様厚ク注意スヘキハ勿論町村長ハ知事ニ於テ之ヲ認可スルノ職權ヲ有スルニ付其選任ノ當否ハ詳ニ之ヲ監査シ犯罪不正ノ行為アル者若ハ懲戒處分ヲ受ケタル者ノ如キハ言フヲ待タス（但懲戒處分ノ輕キモノハ別段ナリ）其經歷上其任ニ適セスト認ムルモノハ之ヲ認可セス又就職後ト雖モ職務ノ内外ニ拘ラス不都合ノ行為アルモノハ嚴正ニ訓諭ヲ加ヘ再三及テ猶之ヲ遵奉セサル者ノ如キニ至テハ假借スル所ナク處分ヲ行ヒ且以テ紀律ヲ嚴肅ニスルノ良習慣ヲ養成スルヲ要ス

十 市町村吏員タル者ハ政論ノ外ニ立テ一ニ市町村ノ公益ヲ計リ黨派ニ偏セス公平ヲ持スルヲ以テ最專要トス故ニ假令其人姓名ヲ政黨ニ列スルコトアルモ市町村行政ノ職務ヲ行フニ方テハ自治ノ本旨ヲ恪守シ毫モ黨派ノ關係ヲ及ホスコトアルヘカラス監督官廳ハ厚ク之ヲ監査シ其行為公平ヲ失スルト認ムル者ハ前項ト同ク嚴ニ訓諭ヲ加ヘ事實ニ依テハ相當ノ處分ヲ行フヘシ

十一 市町村吏員ノ任期アル者ハ其任期中ハ自己ノ意思ニ依リ規定ニ從テ退職スルノ外他ヨリ容易ニ進退セシムルヲ得ス然ルニ其任期中ニ在テ市長ノ俸給ヲ減額シ町村長助役ヲ有給吏員ト爲シ若クハ其有給ノ例ヲ廢シ以テ容易ニ吏員ノ交代ヲ促スカ如キコトナシトセス又法律ノ規定外特ニ議員ノ定數ヲ増減スルコト往々アリ是或ハ黨派ノ私ニ起因シ其實吏員議員ヲ進退スルノ意ニ出ツルコトアランモ知ル可カラス若シ右

等ノ事アルニ於テハ獨リ法律ノ旨趣ニ戻ルノミナラス其弊少カラサルニ付嚴ニ其事實ヲ審明シ事宜ニ依リ一面ハ訓誡ヲ加ヘ一面ハ事狀ヲ具申スヘシ  
十二 各府縣ニ於テ本訓令ニ依リ事務報告例巡視規程處務規定準則出納帳簿式出納檢閱例規市町村吏員事務引繼順序其他諸簿冊ノ種類員數樣式等ヲ設クルトキハ本省ニ報告スヘシ

●市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準（明治二十八年四月）  
（内務省訓令第四號）

- 一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハカメテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ
- 一 避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ
  - 一 重症患者室 若干棟
  - 一 輕症患者室 若干棟
  - 一 快復期患者室 一棟
- 一 以上ノ建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ
- 一 醫員其他事務員詰所調劑所看護人室及炊場等 一棟
- 一 但浴室厠ヲ備フヘシ
- 一 消毒所 一箇所

但洗濯所、附屬ヲ要ス

- 一 屍室
- 一 汚物置場及燒却所
- 一 物置
- 一 簡所
- 一 簡所
- 一 簡所

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設グルコトヲ得

- 一 病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ造ルヘシ
- 一 病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌消毒ニ便スヘシ
- 一 屍室ハ床ヲ漆喰敷キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 一 各病室ノ床下ハ可成漆喰敷キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケテ之ニ入ルノ施設ヲ爲スヘシ
- 一 避病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師、調劑掛、看護人、事務員ヲ置クヘシ
  - 一 醫長 一人
  - 一 醫員 患者十五名乃至二十名ニ付一人
  - 一 調劑掛 二人以上
  - 一 看護人 患者五名ニ付一人
  - 一 事務員 若干

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫長、調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

●市町村名及市役所町村役場ノ位置變更方 (明治二十三年八月) 法律第七十七號

- 第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

●區町村會法 (明治十七年五月) 布告第十四號

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スル事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第五條 區長ニ於テ區會、郡(區)長(戶長)ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認

ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戸長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ルル者及陸軍軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第一款第二款第三款第四款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區長戸長若シ事故アルトキハ(區長戸長)ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキハ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

●市町村會議員選舉罰則 (明治二十三年五月) (法律第三十九號)

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ

依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ罪犯者或器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ヲシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制竝ニ明治二十二年法律第十一號ニ揭リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

浦役場及浦役人 (明治九年十二月 太政官達第百十七號)

從來浦役人ノ名稱有之候得共其事務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條款ニ從ヒ浦役場ヲ設置シ浦役人ヲ命スヘシ此旨相達候事

第一條 浦役場ハ沿海大市及ヒ商船輻湊ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置ス可シ

第二條 浦役場ハ當分ノ中區務所等ヲ以テ代用シ浦役人ハ〔區長〕若クハ〔戶長〕ニ兼勤申付書

記用掛等ヲシテ補助セシムヘシ

第三條 浦役人ハ其地繫泊ニ關スル庶務(警察事務稅關事務其他主管アル事務ヲ除キ)及ヒ難破船取扱難破浦證文付與等ノ事ヲ掌ラシムヘシ

第四條 浦役場設置ノ地名ハ明治十年三月三十一日限り内務省ニ報告シ以後毎年十二月中ニ其廢置變換等ヲ同省ヘ報告スヘシ

### 第三類 戶籍、旅行及移民保護

#### 第一章 戶籍法

● 戶籍法 (明治三十一年五月)  
法律第十二號

##### 第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

第一條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍吏之ヲ管掌シ戶籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戶籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判

事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 戸籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戸籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

### 第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避ケル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戸籍吏カ閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ複製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

### 第三章 登記手續

第三類 第一章 戸籍法

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

四

- 一 戶籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 二 戶籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
  - 三 戶籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 四 戶籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 五 戶籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ
  - 六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ
- 第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條 戶籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 登記ハ本籍人非本籍人、及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ依リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ニ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ旨趣ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出



又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ

登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス  
前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報

告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル  
第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サ、リシトキハ戶籍吏ハ戶籍役

場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノ、外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ

於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告又ハ請求者ノ官職、氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ  
謄本發送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用キス字畫明瞭ナルコトヲ要ス  
年月日及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用シテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要

ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ  
記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得  
ヘキ爲ノ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ

一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコ

トヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル

場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送附スル

コトヲ要ス  
被登記者ノ本籍カ他ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登

記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戶籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戶籍吏ノ管轄ヨ

リ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後  
遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スル  
コトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス  
前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス  
第三十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス  
書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス  
登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス  
地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ

欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ遲滞ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戸籍吏ハ毎年未ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用キ盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

### 第四章 身分ニ關スル届出

#### 第一節 通則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス  
第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 届出事件
- 二 届出ノ年月日
- 三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

- 前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地
  - 二 無能力ノ原因
  - 三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在

地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届出ニ記載スヘキ事項其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二通ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二通ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ナシテ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス  
日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一ヶ月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス  
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者

アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應ゼサルトキ亦同シ

第六十四條 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サ、ル者アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨

- 三 出生ノ年月日時及ヒ場所
- 四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス
- 五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地
- 六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因
- 七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子私生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前三項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘギトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十四條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ

爲ス丁ヲ要ス

十六

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス  
棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ狀況竝ニ其兒ノ出生ノ推定年月氏名男女ノ別引受人ノ氏名職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號竝ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調査ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス  
第二項ノ調査ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲サ、ル前生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス  
前項ノ手續ヲ要シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

### 第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

### 第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
  - 二 出生ノ年月日
  - 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
  - 四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母ト

ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

十八

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及第八百三十一條ノ規定ニ依リ子ノ母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知タル日ヨリ一个月内ニ認知登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

#### 第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名職業及ヒ本籍地養子カ婚姻又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事業ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法第七百四十一條第一項第七百五十一條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六節 養子離縁

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セム

第九十六條 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名
- 七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七節 婚姻

第一百零一條 第五十八條ノ規定ハ離縁ノ届出ニハ之ヲ適用セス

- 第一百零二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
  - 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
  - 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨
  - 六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日



當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三條 民法第七百四十一條第一項第七百五十條第一項第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ソ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第三百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢察カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢察ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第三百七條 第二百二條及ヒ第三百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚

第九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第四 婚姻ノ年月日

五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ副ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 第九條及ヒ第十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九節 後見

第十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之

ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
- 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
- 五 後見人就職ノ年月日

第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第百十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第百十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 就職ノ年月日
- 三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

### 第十節 隠居

第百十九條 隠居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 隠居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隠居者トノ續柄
- 三 隠居ノ原因

第百二十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百二十一條 隠居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添へ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十二條 隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

二十六

第十一節 失踪

第二十三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内

ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 失踪者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 失踪ノ宣告アリタル年月日

三 失踪者カ家族ナルトキ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第二十四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ  
一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節 死亡

第二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸  
件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢察官ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコ  
トヲ要ス

一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日男女ノ別及ヒ戸籍地

二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、族稱及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコ  
トヲ要ス

第二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク第二十五條ニ掲ケタル諸件

ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ  
ハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢察官ノ報告書ヲ添フルコトヲ要ス

第三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミ  
タル證人ノ前ニ於テ第二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺  
印シ且證人ノ出生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後船長日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死  
亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ内務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三百三十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢視調書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戶籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戶籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第三百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知りタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ニ代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第三百三十三條 家督相續ニ因リテ戶主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一個月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス  
一 家督相續ノ原因及ヒ戶主ト爲リタル年月日

二 前戶主ノ名及ヒ前戶主ト家督相續人トノ續柄

家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三個月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル第三百三十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一個月内ニ前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且前ニ爲シタル家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百三十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知りタル日ヨリ一個月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 相續開始ノ年月日
- 二 家督相續人ノ胎兒ナルコト
- 三 前戶主ノ名及ヒ前戶主ト家督相續人トノ續柄

第三百三十三條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一個月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

母カ登記取消ノ申請ヲ爲サ、ルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一個月内ニ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第三類 第一章 戶籍法

第三百二十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 廢除ノ原因
- 三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第三百二十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百二十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届出ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人ノ氏名、族稱出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 指定ノ年月日

第四百十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十五條 家督相續人ノ指定カ其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第四百十六條 民法第七百三十五條第一項若クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係

三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨  
 四 入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日、職業、本籍地  
 及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第四百七十七條 民法第七百三十五條第一項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依  
 リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届  
 書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺  
 印セシムルコトヲ要ス

第四百四十八條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコト  
 ヲ要ス

- 一 離籍セラルヘキ者ノ氏名出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 離籍ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日
- 三 離籍セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名出生ノ年月日、職業及ヒ其者  
 ト離籍セラルヘキ者トノ續柄

第四百四十九條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸  
 件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 離籍ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄

三 離籍ノ原因及ヒ年月日  
 四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ  
 續柄

第四百五十條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届  
 出ツルコトヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日
- 三 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一家  
 ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコ  
 トヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日、職業及ヒ本  
 籍地
- 二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ  
 續柄

第十七節 廢家及ヒ絶家

第四百五十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リ戸主ト爲リタル者

ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第一百五十三條

絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 絶家ノ原因及ヒ年月日
- 三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生年月日及ヒ職業

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

第一百五十四條

分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
  - 二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄
  - 三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業
  - 四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 第一百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
- 一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二 廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ他家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第一百五十六條

分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ナシ

テ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要ス

ル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第一百五十七條

外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ

縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本

ヲ添フルコトヲ要ス

第一百五十八條

外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ

子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百五十九條

歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内

務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍
- 二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍
- 三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄
- 四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 國籍喪失ノ原因
- 二 國籍喪失ノ期日ヲ知り得ヘキトキハ其年月日
- 三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄
- 四 新ニ取得スヘキ國籍
- 五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ナ爲スコト能ハサリシト

キハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ之ヲ適用セス

第六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第六十三條 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
- 二 國籍回復前ニ有セシ國籍
- 三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日
- 四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

第六十四條 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス



一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

三十八

二 復舊シタ氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第百六十五條

新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條

前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節 身分登記ノ變更

第百六十七條

身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十八條

身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 原登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

第百六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 戸籍簿

第百七十條

戸籍ハ戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第百七十一條

戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戸籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム

第百七十二條

戸籍簿ハ正副二本ヲ設ク戸籍簿ノ正本ハ之ヲ戸籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス

第百七十三條

家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戸籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第百七十四條

第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戸籍簿並ニ戸籍ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第六章 戸籍ノ記載手續

第三類 第一章 戸籍法

三十九

第四百七十五條 戶籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル

第四百七十六條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 戶主、前戶主、及ヒ家族ノ氏名
- 二 戶主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戶主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
- 三 戶主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
- 四 戶主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス
- 五 戶主竝ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戶主又ハ家族トノ續柄
- 六 戶主ト前戶主トノ續柄及ヒ家族ト戶主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戶主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス
- 七 他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト戶主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
- 八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄
- 九 戶主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因竝ニ年月日

十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名住所及ヒ後見人ノ就職竝ニ任務終了ノ年月日

第四百七十七條 戶主及ヒ家族ノ氏名ヲ戶籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル

- 第一 戶主
  - 第二 戶主ノ直系尊屬
  - 第三 戶主ノ配偶者
  - 第四 戶主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
  - 第五 戶主ノ傍系親及ヒ其配偶者
  - 第六 戶主ノ親族ニ非サル者
- 直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニス直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス
- 直系尊屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム
- 前二項ノ規定ハ戶主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス
- 第四百七十八條 戶籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戶籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戶籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス
- 第四百七十九條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戶主又ハ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戶籍ニ基キテ新戶主ノ戶籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス  
胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

四十二

第百八十条 分家、廢絶家再興其他新家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第百七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十一条 復籍拒絕ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絕シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十二条 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十三条 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十四条 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル戸籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊戸籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新戸籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十五条 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キ第百七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第百八十条第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十六条 戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキトキハ第百七十七條ノ順序ニ拘ハラス戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十七条 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事項ヲ戸籍ニ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十八条 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ戸籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

第百八十九条 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ戸籍カ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受付ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前條ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル届出ニ基キテ戶籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ關スル届出其他ノ書類又ハ戶籍ニ關スル届書ノ受付年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戶籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第百九十二條 戶籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得掛紙ヲ爲シタルトキハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戶籍ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第百九十四條 第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ニ依リテ戶籍ヲ編製シタルトキハ戶籍吏ハ遲滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第七章 戶籍ニ關スル届出

第百九十五條 戶籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戶主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ戶籍ノ謄本ヲ添ヘテ之本籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

- 一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 本籍地及ヒ轉籍地

前條ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

前條ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第百九十六條 戶籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戶主ヨリ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第百九十七條 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ複本籍ヲ有スル者ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十八條 就籍ノ届出ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時職業及ヒ就籍スヘキ地
- 二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄
- 三 就籍ヲ有セザリシ原因
- 四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地
- 五 就籍スヘキ者カ戶主ナルトキハ其旨
- 六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戶主トノ續柄
- 七 就籍スヘキ者カ戶主及ヒ家族ナルトキハ戶主、家族ノ別及ヒ家族ト戶主トノ續柄
- 八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ其原籍地、原籍

ノ戸主ノ氏名、族稱及ヒ其戸主ト就籍スヘキ者トノ續柄  
前項第六號及ヒ第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ偶配者ト  
爲リタル者ナルトキ又ヘ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ届書ニ其  
者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者  
ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第百九十九條 除籍ノ届出ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ

謄本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 除籍スヘキ者ノ氏名、名稱、職業、本籍地及ヒ複本籍地

二 複本籍ヲ有セル原因

三 除籍スヘキ者カ本籍ト複本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍竝ニ複本籍ニ於ケル  
身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第二百條 就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戸主及ヒ家族ナルトキハ前二條ノ届出  
ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一條 第百九十八條及ヒ第百九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ本籍ノ届出  
ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條 第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條乃至第五十二條、第五十四條、  
第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章 抗告

第二百三條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場

ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムル  
コトヲ要ス

第二百六條 戸籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告  
人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日内ニ裁判所ニ返還  
スルコトヲ要ス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戸籍  
吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達ス  
ルコトヲ要ス

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限  
リ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

四十八

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ拾圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十一條 期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲サ、ルニ因リ戶籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ貳拾圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十二條 戶籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ參拾圓以下ノ過料ニ處セラル  
一 正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戶籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ  
二 身分登記又ハ戶籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百十三條 戶籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ拾圓以下ノ過料ニ處セラル  
一 正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戶籍簿ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ  
二 正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若クハ戶籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

第二百十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所ニ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戶籍ニ關シ

詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル

附 則

第二百十六條 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戶籍吏トナシ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戶籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム  
市參事會員其他戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者モ亦前條ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ収入トス但國庫ヨリ戶籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ収入トス  
手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百十八條 本法ノ規定ニ依リ届出入其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ

足ル  
前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事

由チ附記スルコトヲ要ス

五十

第二百十九條 明治三十一年十一月三十一日マテハ從前登記目錄トシテ備ヘタル帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條 登記目錄ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ明治三十一年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限り戸籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラス登記目錄ヲ作製スルト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣之ヲ定ム

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其實事ヲ知ルコト能ハサルモノ又ハ從前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設ナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第二百二十二條 明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内務省令第二十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

## 第二章 旅行ニ關スル諸規則

### ●海外旅券規則

(明治十一年二月外務省令第一號公布  
三十年十月外務省令第五號改正)

旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少カラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ地方行政廳へ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ苦シカラス旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所へ當人姓名ヲ自記スヘシ

第二條 旅券ヲ受クルモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但旅券ハ一人一枚ニ限ルヘシ若シ五歳以下ノ小兒其父母同道ナルトキハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ是レリトス

第三條 内地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館へ其趣ヲ記載セル書面ヲ出ダシ自身出頭シテ願ヲ受クヘシ但其手数料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第四條 公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ學留スル者ハ内地ニアリテハ其官廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣ニ從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ但手数料ハ納ムルニ及ハス

第五條 旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其國ニヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ但其定規ニ隨ヒ手数料ヲ拂フヘキモノトス

第六條 海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスルコトアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘ

シ但領事官ナキ地ニ於テハ公使館ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條 旅券ハ歸朝ノ後三十日以内ニ其最初受取リタル官廳ヘ之ヲ返納スヘシ郵船等ノ海員  
常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニ在ラス但シ海外ニアリテ我公使又ハ領事官ヨリ受取リタル者  
ハ外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス(旅券雜形願略之)

●外國船乘込規則 (明治九年三月 布告第三十號)

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所  
持船何號ニ乘込何港迄趣ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受  
ヘシ

第二條 乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條 乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手数料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸 例ハ横濱港ヨリ島  
神戶港ニ卸碇シタル時用スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ  
便ノタメ暫時上陸スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ

第六條 乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘  
込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證  
書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條  
第四條ノ手續ニ相違ナキヤヲ檢閱シ別紙雜形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領收スヘ  
シ

第九條 右地方廳ハ豫テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若  
干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閱シ若シ證書ヲ所持セサル  
歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由  
ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ  
再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ  
本人ニ還付スヘシ(證書雜形願略之)

第三章 移民保護ニ關スル諸規則

●移民保護法 (明治二十九年四月 法律第七十號)

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者及其ノ家  
第三類 第三章 外國船乘込規則



換ニシテ之ト同行シ又ハ其所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ  
前項労働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス  
渡航ノ許可ハ其ノ許可日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ効力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情况ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル  
二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於  
テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民渡航ヲ  
差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ  
其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ  
移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ効力ヲ失フモ  
ノトス

第七條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ帝國ニ於テ主タル  
營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス

前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行爲法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ム  
ルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可  
ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖既ニ渡航セシメタル移民ニ  
對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳  
ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡  
航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得  
ス

第十三條 移民取扱人渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可  
ヲ受クヘシ

前項契約ニ必要ナル條件ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 移民取扱人ハ前條認可ヲ受ケタル書面契約ニ定ムル所ノ渡航周旋料若ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日内ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第三章 保證金

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ壹萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ノ取消又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又

ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 罰則

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ詐リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ貳百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル者ハ取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員

又ハ取締役ニ之ヲ準用ス

五十八

第五章 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受クルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但其ノ營業ヲ繼續セサルトキト雖其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●移民保護法施行細則

(明治二十九年五月外務省令第三號公布)  
(三十一年六月及三十二年三月改正)

第一條 移民保護法第一條ニ掲クル勞働ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 耕作、栽培、牧畜、漁業、鑛業、製造、土木、運搬、建築等ニ從事シ勞力ヲ供スル者

二 炊事、洗濯、裁縫、給事、看病等ノ爲メ家事ニ使役セラルル者

第二條 渡航ノ許可ヲ受ケント欲スル移民ハ渡航地名、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ出願スヘシ

前項ノ移民ニシテ移民取扱人ニ依ル渡航願書ニ移民取扱人ヲシテ連署セシメ且ツ契約書ヲ

提示スヘシ移民取扱人ニ依ラサル者ニシテ保證人ヲ要スル地ニ渡航スルトキハ渡航願書ニ保證人ヲ連署セシメ且ツ保證書ヲ揭示スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ場合ハ外務大臣之ヲ告示スヘシ

第四條 移民保護法第三條ニ掲クル保證人ハ其ノ原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第五條 移民取扱人タラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ主タル營業者ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ外務大臣ニ出願スヘシ但合名會社ニ於テハ各社員ヨリ、合資會社ニ於テハ業務擔當員ヨリ株式會社ニ於テハ發起人ヨリ出願スヘシ

- 一 營業所
- 二 營業資本金額
- 三 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限
- 四 移民ヲ渡航セシムヘキ土地
- 五 移民ノ種類
- 六 取扱フヘキ移民ノ豫定人員
- 七 移民ノ渡航前後ニ於ケル周旋ノ方法
- 八 出願者ノ履歷
- 九 合名會社ニ於テハ各社員ノ財産、合資會社ニ於テハ各社員ノ出資額及無限責任社員ノ

六十  
財産、株式會社ニ於テハ株式ノ總數及一株ノ金額並發起人各自ノ引受クル株數及財産、  
會社ニアラサルモノニ於テハ營業主ノ財産

移民取扱人營業ヲ相續シ若クハ讓受ケントスル者モ亦本條ノ規定ニ依ルヘシ

第六條 移民取扱人營業開始ノ後前條ニ掲グル第二第四第五第六第七ノ事項ヲ變更シ又ハ主  
タル營業所ヲ他ノ廳府縣ニ移轉セントスルトキハ前條ノ手續ニ準シ許可ヲ受クヘシ

第七條 移民取扱人ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官（東京府ハ警  
視總監）ヲ經由シ外務大臣ニ届出ツヘシ

一 開業シタルトキハ其ノ年月日

二 株式會社設立ノ後取締役ノ氏名住所ニ變更アリタルトキ

三 商事會社ニシテ無限責任社員若クハ取締役ニ變更アリタルトキ其ノ氏名住所但無限責  
任社員ニ關シテハ其ノ履歴書及財産調書ヲ添フヘシ

四 同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉

五 支店若クハ出張所ノ廢置移轉

六 營業年限ノ變更

主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店若クハ出張所ノ廢置移轉ハ其地ノ地方長  
官（東京府ハ警視總監）ニモ届出ツヘシ

第八條 外務大臣ニ於テ不適當ト認メタル者若クハ左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ移民取扱人  
終ヘサル者

又ハ代理人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白痴ノ者

二 公權ヲ剝奪セラレタル者

三 公權停止中ノ者

四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ  
終ヘサル者

第九條 移民保護法第十一條ニ依リ業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ヲ移民ノ渡航地ニ  
在留セシムルトキ又ハ其ノ歸國若クハ解任ノトキハ其ノ氏名及在留地ヲ詳記シ主タル營業  
所ヲ置ク地ノ地方長官（東京府ハ警視總監）及其ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツ  
ヘシ

第十條 移民保護法第十三條ニ掲グル書面契約ニ對シ認可ヲ受ケント欲スルトキハ其ノ契約  
書全文ニ移民ヲ渡航セシムヘキ土地ノ情況ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ移民原籍地ノ地方長官  
（東京府ハ警視總監）ニ差出スヘシ

前項契約書ニハ左ノ事項ヲ缺クコトヲ得ス

一 契約期限

二 渡航周旋料若クハ手数料

三 渡航及歸航費用ノ支辨方

第三類 第三章 移民保護法施行細則

四 渡航地ニ於ケル周旋ノ方法

五 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助又ハ歸國ノ手續

書面契約認可ノ後移民取扱人ト移民トノ間ニ解約アリタルトキハ移民原籍地ノ地方長官  
(東京府ハ警視總監)ニ届出ツヘシ

地方長官書面契約ニ對シ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書寫ヲ添ヘ認可ノ年月日、移民ノ氏名、  
年齢、族籍、職業並ニ契約番號ヲ外務大臣ニ報告シ又移民取扱人ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ  
地方長官(東京府ハ警視總監)ニ通知スヘシ解約ノ届出アリタルトキ亦同シ

第十一條 移民取扱人外國ニ於ケル移民雇主ノ注文ニヨリ移民ヲ募集セントスルトキハ雇主  
ノ注文書ニ移民募集地方別豫定表ヲ添ヘ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視  
總監)ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民募集地方別豫定員數ヲ  
當該地方長官(東京府ハ警視總監)ニ通知スヘシ

第十二條 當該官廳ヨリ移民保護法第十三條ニ掲グル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキ  
ハ移民及移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人移民保護法第十五條ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知ス  
ルトキハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十四條 移民保護法第十六條ニ掲グル保證金ハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府

ハ警視總監)ニ納付スヘシ

前項保證金額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム

第十五條 移民取扱人ノ納附スヘキ保證金ハ左ノ割合ヲ超過セサル限り國債證券又ハ地方債  
證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

一 保證金額壹萬貳千圓マテハ其ノ三分ノ二

二 保證金額壹萬貳千圓以上參萬圓マテハ壹萬貳千圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ四分ノ

三

三 保證金額參萬圓以上ハ參萬圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ五分ノ四

前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納附ヲ受クヘキ官廳ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ハ移民取扱人ノ保證金増額  
ヲ追納セシメ若クハ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第十七條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ許可ヲ受ケント欲スルトキハ其ノ事項ヲ詳記シタル  
書類ヲ添附シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ外務大臣ニ出  
願スヘシ

一 代理ニ關スル條件

二 代理人ノ履歷

三 代理人ノ財産

第十八條 代理人ニシテ其ノ業務ヲ行フトキハ代理人タルノ許可證ヲ携帶スヘシ移民取扱人外國ニ在留スル者ヲ代理人ニ定メ其ノ許可證代理人ニ到達スル以前ニ業務ヲ行ハシムル必要アルトキハ移民取扱人ノ費用ヲ以テ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官（東京府ハ警視總監）ヲ經由シ其ノ在留スヘキ地ヲ管轄スル在帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十九條 移民取扱人移民ニ關シ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官（東京府ハ警視總監）及其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在帝國官廳ニ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集シタルトキハ第十條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫ヲ添フヘシ

第二十條 移民取扱人移民ノ身上ニ異變ヲ生セシ報告ニ接シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地並ニ移民原籍地ノ地方長官（東京府ハ警視總監）及其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ明記シタル届書ニ契約書寫ヲ添ヘ其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在帝國官廳ニ送付スヘシ  
前項契約書寫ハ同一條件ニ係ルモノハ其ノ寫一通ヲ以テ足レリトス

第二十二條 移民ノ渡航地ニ在留スル業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地雇主ノ氏名ヲ明記シ當該官廳ヨリ命令アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第二十三條 移民ノ渡航地ニ在留スル業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ他國ニ轉住スヘキ移民アルトキハ其ノ在留地及轉住地ヲ管轄スル在帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十四條 移民取扱人ハ左ノ書式ニ依リ調製シタル渡航者名簿ヲ翌月五日マテニ歸國者名簿及死亡者名簿ヲ翌年一月二十五日マテニ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官（東京府ハ警視總監）ニ届出ツヘシ  
（渡航者名簿、歸國者名簿、死亡者名簿、略之）

第二十五條 渡航ノ目的又ハ渡航年限ヲ詐リテ渡航ノ許可ヲ受ケタル者並第六條第十二條第十三條第十八條第二十二條及第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第九條第二十條第二十一條第一項及第二十三條ニ違反シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十七條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ在外帝國領事館又ハ貿易事務館及領事館貿易事務館ナキ地ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル帝國公使館ヲ謂フ

第二十八條 本令ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス  
明治二十七年外務省令第六號移民保護規則施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●北海道移住民規則 (明治三十年四月  
拓殖務省令第5號)

六十六

- 第一條 開墾ノ目的ヲ以テ團結規約ヲ締結シ北海道ニ移住シ土地ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ現住地ノ府縣知事ニ出願シテ證明ヲ受クルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ出願スルトキハ左ノ事項ヲ掲載シ府縣知事ニ差出スヘシ
- 一 事業ノ目的(開墾牧畜植樹等)
  - 二 貸付出願ノ地積
  - 三 移住ノ戸口
  - 四 從來ノ職業
  - 五 總代人ヲ設ケタルトキハ其ノ氏名
  - 六 移住後ニ於ケル鄰保護ノ方法ヲ設ケタルトキハ其ノ方法
  - 七 移住旅費家屋農具衣食等ノ準備並ニ支出ノ方法
  - 八 小作ノ方法ニ依ル場合ハ前各項ノ外小作契約
- 第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限り證明ヲ與フヘシ
- 第四條 前條ノ證明ヲ受ケタル者ノ爲ニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規程ニ從ビ其ノ出願ニ依リ開墾地ノ豫定存置ヲ爲スコトアルヘシ

- 第五條 證明ヲ受ケタル後六箇月ヲ經過シタルトキハ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 北海道廳ノ下附シタル土地貸付ノ指令若ハ北海道廳長官又ハ北海道ニ於ケル郡區長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人ニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス
- 第七條 當該官吏又ハ市町村吏員ヨリ前條ノ指令書若ハ證明書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上一圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 第六條ニ依ル小作人ノ募集又ハ移住ヲ妨害シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

# 第四類 兵事

## 第一章 徵兵、陸軍志願兵、陸軍召集、豫備、軍後備軍

### ● 徵兵令

(明治二十一年二月法律第一號)  
(公布廿六年及二十八年改正)

#### 第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スル義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス  
第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年ハムニシテ

四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス



第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ學アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルヘシ

一年志願兵ノ豫備役後備役年限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ職務ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニ在テハ毎年一度六十日以  
内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第六補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集  
ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツル者ハ服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲  
スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第十補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス  
第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ  
召集ス

### 第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限  
ル

第二十條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セ  
シム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集  
ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集  
ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢  
家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ  
猶豫ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依  
ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ  
依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝  
スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ二十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第  
十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備  
兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ  
法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

### 第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄

又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ(戸主ニ非サル者ハ其戸主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徴兵ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十月一日(第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セズ其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

#### 第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

#### 第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府下小笠原島ニハ漸テ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過ク

ルモ仍ホ止ラサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員トナリタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

ル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲ル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲ル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタル時ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

●徵兵事務條例 (明治二十九年三月勅令第百二十號公布 三十二年四月勅令第百十三號改正)

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵兵區ニ分ツ

第三條 徵兵區ハ一郡又ハ(一)市北海道ニ在テハ區)ヲ以テ一區ト爲ス  
一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

第四類 第一章 徵兵事務條例

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島嶼ヲ置クモノ亦同シ  
東京市京都市大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢査區ニ分チ區ヲ以テ檢査區ト爲ス  
第四條 歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區(第一師管ニ在テハ二聯隊區)ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其不足ヲ補充スルコトヲ得

近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス  
鐵道隊ノ兵員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス  
警備隊ノ兵員ハ警備隊區ヨリ徵集ス  
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

## 第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全關徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス  
北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長(北海道ノ區ニ在テハ區長)ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ檢査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲グル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區(東京市、京都市、大阪市ニ於テハ檢査區)毎ニ聯隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵兵延期及徵兵免除並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵兵猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム  
東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市民中選舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル  
島嶼ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員中

ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル  
北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任  
期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區副醫官又ハ警備隊區  
徵兵醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコ  
ト得

師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管內徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊  
區司令官ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區內徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ管掌  
シ聯隊區徵兵副醫官ハ聯隊醫徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス  
第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區醫官ハ陸  
軍一等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ヲ以テ之レニ充  
ツ

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員  
ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記二名  
及島嶼郡市書記（東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記）二名若クハ三名  
ヲ以テ之ニ充ツ

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記二名及府屬二名及各區書記二名若クハ三名ヲ以テ之  
ニ充ツ

第十七條 徵募事務執行ニ際シ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ全部ヲ缺クトキ  
ハ府縣知事ハ徵募區內ノ公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ就キ臨時聯隊區徵  
兵參事員又ハ臨時警備隊區徵兵參事員ヲ命スルコトヲ得

島嶼ニ置キタル島嶼ノ臨時徵兵參事員ハ島司ニ於テ便宜之ヲ命スルコトヲ得

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス  
第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ隊聯區  
司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長（町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長以下同シ）毎年戶籍簿ニ據リ徵兵  
適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ  
郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取調メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵  
兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ

市長（東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ）ハ前項ノ例ニ依リ壯

丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ設ク但土地廣濶若ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵官吏及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長(東京市京都市大阪市ニアリテハ區長)ハ徵兵延期及徵兵猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集

猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員列席ノ上抽籤總代之ヲ爲スモノトス但シ東京市、京都市、大阪市ノ徵兵參事員ハ検査區ヨリ一名宛出席スヘシ

抽籤總代人ハ其ノ年ノ壯丁ニ就キ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員之ヲ選定ス其人員適宜トス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿、徵兵延期名簿、徵兵猶豫名簿、徵兵免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テ抽籤名簿ヲ除ク外ハ區長之ヲ領シ區役所ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役名簿各聯隊長(聯隊ヲ爲ササル隊ニ在テ

ハ隊長)及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵集スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵兵免除ノ者竝ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

#### 第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第百二十六號

第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

徵兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級徵兵官ニ差出スヘシ

第四十條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ニ於テ下級徵兵官ノ裁決不當ナリト認ムルトキ又其ノ裁決詐偽若ハ錯誤ニ起因シタルモノナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

#### 第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム



警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ翌年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管、第七師管、第八師管及第九師管ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ニ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輜重輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス

戰時若クハ事變ニ際シ其他必要ノ場合ニ在テハ前諸項入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部員ヲ入營地若ハ近衛海軍入營兵集合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營兵受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引率員ヲシテ入營地若ハ近衛海軍入營兵集合地ニ引率セシムルコトアルヘシ

入營兵ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ請フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許スヘシ

其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長以下同シ)ノ與

書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍(戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同シ)スルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルヒノトス

但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員ヲ生シ若入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム

其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前又ハ癱瘓又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ同徵募區内其年徵兵ニ應スヘキ現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長、町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキ者トス島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作リ願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條

現役兵入營前及補充兵（補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ）轉籍シタルトキハ十一月四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長、町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條

現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長、町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以

上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ本籍及寄留地徵募區ノ検査開始前寄留ノ島司郡市長（東京府、大阪市、京都市ニアリテハ區長以下同シ）ニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市町村長ニ届出ヘシ

島司郡市長其ノ願ヲ許シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス

島司郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

本條ノ願出己ハヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可スヘシ

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ(三月一日後抽籤迄ニ事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下同シ)聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出ヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡市長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ其ノ届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費、徵兵參事員ノ手當金、旅費ハ官給ス

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第四編 第一章 徵兵事務條例

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受ケルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第三十三條ノ例ニ準ス

韓國在留ノ者ニ在テハ前項ノ例ニ依リ便宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受ケルコトヲ得

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一、第二、第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵集スル者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛海軍入營兵ノ例ニ依ル

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス（改正ノ點ハ卅二年四月一日ヨリ施行）

●徵兵事務條例施行細則

（明治廿九年四月陸軍省令第十號公布卅年四月全省令第七號及卅二年四月全省令第八號改正）

徵兵事務條例施行細則左ノ通り改正ス

第一條 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一機式ニ依リ之ヲ作り一市（東京市、京都市、大

阪市及北海道ノ區ニ在テハ區）一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長（東京市、京都市、大阪市北海道ノ區ニ在テハ區長）之ニ署名押印スヘシ

第二條 徵兵令第八條第二十五條但書及明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ハ市町村長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ニ於テ調査シ人名書（各事項ヲ頭書ス）ヲ作り壯丁名簿ニ添附スヘシ

第三條 島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ壯丁人員及前年假決ノ人員ヲ同月三十一日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ壯丁人員ヲ取纏メ一月十五日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

前項ノ人員明治二十八年勅令第二百二十六號第三條及明治三十年勅令第二百五十八號第二條ニ當ルヘキ人員ハ之ヲ別記スヘシ

第四條 聯隊區徵兵署聯隊區聯合徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官到着ノ之上ヲ開設スヘシ

一 徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署ヲ設ケントストキハ聯隊區徵兵官豫メ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概子壯丁百七十人交通不便ノ地ニ在テハ概子七十人以上ヲ召集スヘキ地ニ設クヘシ

第五條 聯隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ハ其ノ徵募區又ハ検査區内ニ於テ毎日検査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ期日ニ至リ壯丁ヲ徵兵署ニ出頭セシムヘシ

第六條 身體検査ヲ行フトキハ島廳郡市書記（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區書記）ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿（前年ノ假決名簿中検査ヲ受クヘキ者ノ名簿ヲ含有ス）ニ記入シ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テスヘシ

第八條 身體検査ハ毎年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フテ例トス  
其日割表ハ附錄第十一様式ニ依リテ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官師團長ニ報告シ師團長ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三様式ニ依リ徵集延期證書兵役猶豫證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ本人ニ達スヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵兵免除ニ屬セサル者ニハ其裁決書ヲ市ハ市長（東京市、京都市、大阪市、大阪市ニアリテハ區長）ヨリ本人ニ付與セシム明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ願ヲ許可セサル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
  - 二 騎兵ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
  - 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
  - 四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者
  - 五 輜重兵砲兵輸卒及輜重輸卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
  - 六 砲兵助卒ハ身體強健ニシテ膂力アル者
  - 七 職工ハ成ルヘク其ノ職ニ從事セシ者
  - 八 看護卒ハ成ルヘク者患ノ取扱ニ慣レタル者
- 第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

- 一 水兵ハ成ルヘク帆錨舵機等ノ用ニ慣レタル者
- 二 機關兵ハ成ルヘク汽機汽鐘ノ取扱又ハ火焚ノ業ニ慣レタル者

三 軍樂生ハ齒列齊正ニシテ且指節ノ強剛ナラサル者

四 木工及鍛冶ハ成ルヘク其ノ職業ニ慣レタル者

五 看護ハ成クヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者

六 主厨ハ成ルヘク割烹ノ職ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ之ヲ編綴シ冊尾ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊徵兵官署名押印スヘシ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス

第十四條 聯隊區ニ於テ步兵ノ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ師團長ニ具狀シ師團長ハ師管内地ノ各聯隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

師管内ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ師團長ハ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第十五條 徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行ス

第十六條 疾病傷痕ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ由リ其ノ家ニ就キ検査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先ダテ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署ニ於

テ合格者ノ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ルヘシ

籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スナ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其ノ次番號ヨリ籤番號ヲ起スヘシ

第十八條 籤札ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官徵兵參事員列席ノ前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附録第五様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ徵兵官署名押印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其ノ籤札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ割印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ裁テ切リ總代人ニ交付スヘシ

第二十一條 身體検査ニ合格シタル壯丁中讀書算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ

一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同年齡

ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從フ第二項第三項第四項第六項第七項第八項亦同シ

二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

四 第二十一條ニ依リ現役志願ヲ許可シタル者

五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從フ第九項亦同シ)

六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附録第六樣式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ東京市京都市大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官署名押印スヘシ

令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徵兵表ハ附録第七樣式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前(市ニ在テハ調製前)他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ

但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第二十七條 壯丁名簿進達後條例第三十一條ノ處分前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ抽籤前ハ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テハ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長(東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長)其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後條例第三十一條ノ處分前ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第二十八條 現役兵入營前及補充兵(補充兵證書付與後其ノ年十一月二十日以前ノ者)ノ名簿ニ關スル異動(轉入補除)ヲ生シタルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テ前項ノ異動ハ市長之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長ヨリ聯隊區司令官及市長ニ通知スヘシ

第二十九條

壯丁名簿受領後(市ニ在テハ調製後)抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿若クハ條例第二十七條ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知シ抽籤後ハ條例第三十一條ノ處分前ニ在テハ聯隊區司令官又ハ警備聯隊司令官ヨリ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

其ノ異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ假決若クハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ但身體検査前ノ者ニ在テハ成ルヘク其ノ年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ検査ヲ爲シ置クヘシ

第三十條

身體検査後ハ他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之ヲ處分シ其ノ合格兵ハ新舊徵募區ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ轉籍地徵募區同等番號ノ上位ニ列セシム但轉籍地徵募區現役兵補充兵ノ裁決後ニ係リ要員ニ超過スルキハ順次之ヲ繰下クヘシ身體検査前抽籤ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタルモノアルトキハ成ヘク其ノ年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ身體検査ヲ爲シ置クヘシ

第三十一條

抽籤後徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市長(東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長)之ヲ訂正加除スヘシ其ノ徵募區外又ハ検査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市京都市大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第三十二條

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十九條現役兵入營前及補充兵轉籍ノ通報ヲ受ケタルキハ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ町村長ニ達スヘシ

第三十三條

徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出シ市ニ在テハ市長其ノ名簿ヲ作ルヘシ但シ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長其取扱ヲ爲スヘシ

第三十四條

現役兵入營ノ期ニ先タチ聯隊司令官又ハ警備聯隊司令官ハ入營地若クハ海軍人營兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達スヘシ但シ東京市京都市大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地聯隊司令官又ハ警備隊司令官ヨリ其ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項ノ例ニ依リ各自ニ達スヘシ

第三十五條

條例第四十三條及第六十五條ニ依ル集合地ハ左ノ如シ

麻布、横濱、高崎、長野、佐倉、	近衛兵	東京	海軍兵	横須賀	第七師團	宇都宮
水戸、本郷、宇都宮聯隊區ハ	集合地	東京	集合地	兵集合地	兵集合地	宇都宮
仙臺、福島聯隊區ハ	同	白河	同	白河	同	仙臺
新發田、柏崎聯隊區ハ	同	直江津	同	直江津	同	仙臺
弘前、盛岡、秋田、山形聯隊區ハ	同	仙臺	同	仙臺	同	青森



名古屋、津、豊橋、静岡聯隊區ハ	同	沼津	同	四日市
金澤、富山聯隊區ハ	同	直江津	同	敦賀
鱒江、岐阜聯隊區ハ	同	名古屋	同	敦賀
大阪、和歌山、大津、京都聯隊區ハ	同	京都	同	神戸
福地山、神戸、姫路、鳥取聯隊區ハ	同	神戸	同	姫路
廣島、尾道、山口、濱田聯隊區ハ	同	尾ノ道	同	吳
丸龜、徳島、松山聯隊區ハ	同	丸龜	同	丸龜
高知聯隊區ハ	同	神戸	同	神戸
熊本、大村、鹿兒島、宮崎、小倉	同	門司	同	佐世保
大分、福岡、佐賀聯隊區ハ	同	青森	同	青森
札幌、函館、旭川、釧路聯隊區ハ	同	門司	同	青森
對馬警備隊ハ	同	門司	同	青森

三十四

第三十六條 東京衛戍大阪衛戍ニ入營セシムル現役兵ハ條例第四十三條但書ニ依リ引率員ヲ附シ之ヲシテ當該隊長ニ交附セシム對馬要塞砲兵隊ニ入營セシムル現役兵亦同シ

第三十七條 近衛師團第七師團及海軍現役兵入營ノ期ニ先タチ近衛師團第七師團司令部及海兵團ニ於テ入營兵集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第三十八條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ入營地或ハ集合地派遣ノ聯隊區又ハ警備隊司令官員(聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令官)ヨリ各隊長又ハ近衛師團若ハ陸軍入營受領員ニ其ノ由ヲ通知スヘシ

第三十九條 條例第四十六條ニ依リ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ缺員ヲ補フニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ但他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ノ通知ヲ得テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ

現役兵入營後ノ補缺ハ各隊長又ハ海兵團長ヨリ當該聯隊區司令官又ハ警備隊司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スルノモトス

第四十條 入營地又ハ集合地派遣ノ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ハ現役兵交附ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營ヲ差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

第四十一條 現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ハ島司部市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ(第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除ク外)之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送附スヘシ

第四十二條 條例第四十九條及本則第二十八條ニ當ル現役兵入營前ノ異動ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官(條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官)ヨリ各隊長

長又ハ海兵團長ニ通知スヘシ

第四十三條 現役兵入營前徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者又ハ兵役免除ト爲ル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送附スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ尚ホ市長ヨリ區長ニ送付クヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

第四十四條 補充兵ニシテ他ノ徵募區ニ轉籍(抽籤後其ノ年十一月三十日迄ニ係ルモノヲ包含ス)シタル者ハ新舊住地徵募區同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ

第四十五條 前條ノ異動ヲ生スル者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長(東京市、京都市、大阪市ニ於テハ府ノ書記官)ニ通知スヘシ但其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其ノ名簿ヲ添ヘ舊住地徵募區ノ同種補充役最高ノ抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十六條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書補充兵證書ハ總テ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十七條 現役兵證書、補充兵證書、徵集延期證書、徵集猶豫證書及兵役免除證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長ニ請求スヘシ

第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ男子ニ限ル  
第四十九條 條例第五十三條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ許可シタル旨島司郡市長ヨリ寄留地ノ島司郡市長ニ通知スルニハ之ニ壯丁名簿若クハ前年ノ假決名簿ヲ添フヘシ

寄留地ニ於テ身體検査終ルトキハ前項ノ名簿ニ検査ノ結果ヲ記入シ直ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ本籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附スヘシ

第五十條 條例第五十三條第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ検査ヲ受ケタル者本籍徵募區ノ抽籤前日ニ前條第二項ノ各簿到達セサルトキハ其ノ年ノ検査成績ニ依リ翌年假決若クハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十一條 條例第五十一條ノ願書ハ附録第八様式ニ依リ身元證書ハ附録第九様式ニ依リ合格證書ハ附録第十様式ニ依リ合格證書ハ附録第十様式ニ依リ合格證書ハ附録第十様式ニ依リ作ルヘシ

附 則

第五十二條 第二條中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書ハ明治二十九年ニ於テハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リタル名簿ヲ以テ之ニ換フヘシ  
第五十三條 本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長又ハ之レニ準スヘキモノトス (様式之ヲ略ス)

●徵兵検査規則 (明治二十五年三月 陸軍省令第三號)

第四節 第一章 徵兵検査規則

明治二十二年(三月)陸軍省令第二號徵兵検査規則左ノ通改ム

第一條 徵兵検査ハ徵兵令ニ據リ兵役ニ服スヘキモノノ體格ヲ検査シ其適否ヲ定ムルモノトス

此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 左ノ疾病畸形ノ者ハ不合格トス

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈硬化
- 五 癩癧
- 六 白痴
- 七 癲狂
- 八 夜盲
- 九 盲
- 十 耳聾若クハ鼻ノ全缺スルモノ
- 十一 聾
- 十二 啞

- 十三 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アルモノ
- 十四 食道狹窄
- 十五 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アルモノ
- 十六 歇兒尼亞
- 十七 關節畸形
- 十八 習癖脫春
- 十九 支肢ノ短縮、彎曲
- 二十 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アルモノ
- 二十一 拇指若クハ示指若クハ二指以上ヲ失シタルモノ
- 二十二 纏足
- 二十三 第一趾ヲ失シタルモノ若クハ三趾以上ヲ失シタルモノ

前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖モ服役シ得ヘカヲサルモノハ不合格トス

第三條 徵兵體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健ナルモノ
- 二 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞クモノ
- 三 丙種 身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞クモノ及身長五尺未滿四尺八寸ニシテ丁種

第四類 第一章 徵兵検査規則

種ニ當ラサルモノ

四 丁種 第二條ニ當ルモノ身長四尺八寸ニ滿タサルモノ

五 戊種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ

第四條 第三條ノ甲種乙種丙種ヲ合格トシ其甲種乙種ハ現役ニ徵スヘキモノ丙種ハ國民兵役ニ置クモノトシ丁種ヲ不合格戊種ヲ徵兵延期トス

### ●陸軍六週間現役兵條例

(明治二十八年十月勅令第四百四十一號公布)  
(廿二年四月勅令第五百十五號改正)

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ步兵隊(警備隊ヲ置ク島嶼ニ於テハ警備隊臺灣ニ於テハ最寄ノ步兵隊)ニ編入シ服役セシム

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日(臺灣ニ於テハ十月一日)トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス

戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條 現服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長(獨立大隊ニ於テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ依リ)其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ

得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長(臺灣ニ在テハ旅團長)ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

北海道臺灣沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム

### 附 則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備步兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ步兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

### ●陸軍六週間現役兵條例施行細則

(明治三十年四月陸軍省令第九號公布)  
(三十一年一月及三十二年四月改正)

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體

第四項 第一章 陸軍六週間現役兵條例施行細則

検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官(沖繩警備隊ニ在テハ該司令官以下同シ)ニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附録第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者竝ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除及兵役免除名簿ヲ本籍所管ノ島嶼郡市長北海道ニ在テハ北海道支廳長(東京市、京都市、大阪市及沖繩ノ區ニ在テハ區長以下同シ)ニ送付スヘシ

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方長官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 身體検査後入營前教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令官ニ通報スヘシ

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

一 總督府ニ於テハ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例細則第一様式ニ準シ六週

間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ歩兵隊ニ送付シ身體検査ヲ施行セシムヘシ

二 歩兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體検査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ屬スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各歩兵隊ニ配賦スヘシ

三 歩兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵兵ニ適セサル者ノ名簿ヲ添へ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官以下同シ)ハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ

第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲グルモノノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ムヘシ

附 則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊區内便宜ノ地

ニ於テ施行スルコトヲ得

●官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件 (明治二十二年三月 法律第八號)

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直  
ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘ  
シ

●輜重輸卒現役期限及入營期限 (明治二十二年三月 勅令第三十七號)

朕陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分テ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ  
四月一日第三期ハ八月一日トス  
疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシメ其補缺員ハ次期入營ス可キ  
者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

●陸軍現役輜重輸卒ノ入營在營及補充ノ件 (明治二十七年十一月 勅令第八十八號)

朕戰時若クハ事變ノ際陸軍現役輜重輸卒ノ入營在營及補充ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時若クハ事變ニ際シ必要アルトキハ陸軍現役輜重輸卒ノ入營時期ヲ三回以上トナシ其ノ再  
營期限ヲ伸縮シ及定員ニ拘ハラズ入營セシムルコトヲ得其ノ要員ニ不足アルトキハ豫備徵員  
ヲ以テ之ヲ補充ス

●期限ニ入營シ難キ輜重輸卒ノ取扱ニ關スル件 (明治二十六年十月 陸軍省訓令甲第六號)

徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ翌年身體検査ヲ行ヒ一般徵兵同様取扱フヘキノ處輜重輸卒ニ限  
リ左ノ通取扱フヘシ  
一 疾病犯罪等ノ爲メ第三期ニ入營シ難キ者ハ身體検査ヲ行ハス直ニ所要人員ニ加ヘ其年  
新兵同時ニ入營セシムヘシ  
其事故繼續シ若クハ再發シテ仍ホ次年第二期ニ至ルモ入營シ難キ者アルトキハ徵兵檢  
査ノ際身體検査ヲ行ヒ其徵否ヲ判定スヘシ  
二 毎年徵募事務結了後ニ在テ前項ニ當ル者アルカ爲メ其年所要人員超過スルトキハ第三  
期入營ノ時末番號ノ者ヨリ豫備徵員ニ繰下クヘシ

●現役軍人ト爲リ服役三年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ  
編入ノ諸生徒學生現役若クハ生徒學生ヲ免セラレタ  
ル者處分方 (明治二十七年二月 陸軍省訓令甲第二號)

第四類 第一章 師範學校卒業生徵兵ニ關スル件○輜重輸卒現役在營及補充等ノ件 四十五

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケサル者ニシテ志願ニ由リ現役軍人ト爲リ服役三箇年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵検査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘシ  
但明治二十一年陸軍省訓令甲第六號(師團司令部ヘハ訓令乙第一三號)ヲ廢ス

●徵兵看護卒取扱手續(明治十九年四月 陸軍省令第十號)

徵兵看護卒取扱手續左ノ通定ム

第一條 徵兵看護卒取扱方ハ總テ生兵概則ニ據リ其他ノ諸則モ諸兵ニ同シト雖トモ其異ナル所ノ者ハ此續手ニ準據ス可シ

第二條 徵兵看護卒ハ諸兵ト同時ニ徵集シ營所並ニ分營ニ要スル人員ハ其最近居住ノ者ヲ以テ其步兵隊ニ編入セシメ其他ハ悉ク鎮臺所在地ノ步兵隊ニ編入シ第七條ノ第一教科ヲ教習セシム

第三條 前條ノ教習卒レハ該卒ヲ鎮臺ニ在テハ軍醫長營所ニ在テハ病院長分營ニ在テハ隊附醫官ニ渡ス可シ

第四條 軍醫長病院長又ハ隊附醫官ニ於テ看護卒ヲ受取トキハ看護長ヲシテ第七條ノ第二第三教科ヲ教習セシム可シ

但病院內看護卒舍狹隘ニシテ其總員ヲ容レ難キトキハ便宜若干名ヲ步兵隊ニ留メ病院ニ

通學セシムルモ妨ケナシ

第五條 第七條第二第三教科ハ看護長ヲシテ專ラ之ヲ教習セシムト雖トモ醫官之ヲ指揮監督ス可シ

第六條 教習全ク卒レハ鎮臺ニ在テハ軍醫長營所ニ在テハ病院長分營ニ在テハ聯隊長其熟否ヲ検査シ司令官又ハ旅團長ノ許可ヲ得テ二等看護卒ヲ命スル者トス

但鎮臺並營所病院ニ在テ二等看護卒ヲ命セントキハ諸隊ニ要スル人員ハ直ニ配賦ス可シ爾後病氣事故等ニテ缺員ヲ生スルトキハ病院附看護卒ノ内ヨリ之ヲ補フモノトス

第七條 徵兵看護卒ニハ左ノ教科ヲ教習シ六箇月間ニシテ卒業セシム可シ

第一教科

其一 柔軟體操第一部第四 章第二教迄

其二 步兵教練步兵操典生兵ノ部第一 部第二章第二教迄

第二教科

其一 人體構造ノ概略

其二 看護卒背囊並携帶具ノ用法

其三 三角繙帶用法

其四 繙帶撤絲ノ製造

其五 繙帶術

第四類 第一章 徵兵看護卒取扱手續

第三教科

- 其一 看護法
- 其二 治療介輔法
- 其三 救急法
- 其四 患者運搬法
- 其五 調劑法大意

第八條 看護卒一名ニ付教習ニ要スル品目左ノ如シ

- 一 看護卒教科書 一冊
- 一 岡附三角紮帶 一枚
- 一 白地三角紮帶 二枚
- 一 片頭軸紮帶 三卷
- 一 布 六尺
- 一 布袋 一箇

但以上ノ品目ハ滿期ノ際各自ニ附與スル者トス

●陸軍一年志願兵條例

(明治二十六年七月勅令第七十三號公布廿七年廿八年廿九年及三十二年四月改正)

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及衛戍ヲ選フコトヲ得

但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金參拾八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與ニ馬糧費裝蹄費剃毛費及馬藥費トシテ更ニ金七拾五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長(聯隊ヲ成ササル者ニ在テハ該隊長以下同シ)外泊ヲ許シ通動セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ少年ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入營セシム

第七條 一年志願兵ハ現役兵滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十日迄ニ本籍ノ島司郡市長(東京、京都、大阪ノ

三市及沖繩縣區ニ在テハ區長北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長以下同シ)ヲ經テ居住地所



管ノ師團長ニ差出スヘシ但徴兵ハ第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサル者ハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人及親權ヲ行フ父及母ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス島司郡市長ハ志願者ノ身元資産竝ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十日迄ニ徴兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試験ヲ受クヘキ者ノ人員ヲ各検査場ニ區分シ二月二十日迄ニ教育總監ニ通報シ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徴兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證ハ同

條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第十四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

兵十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其一等卒上等兵ヲ命シ及二等軍曹ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テスルモノトス

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長(歩兵ニ在テハ師團長ヲ經テ)ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備軍ニ編入

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ歩兵隊（理財學商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ限ル）獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間參列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ兵ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添ヘ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願兵中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ（軍醫部長、獸醫部長若クハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ）終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ於テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其ノ落第者ニ於テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄鐵工下士適任證書、軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

二等書記ノ任官及適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノノ外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該

隊二等軍曹ト同一トス  
軍醫生藥劑生獸醫生軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ該隊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入營延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ  
前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊徵兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役テ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス  
一 傷痍若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者)ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス

●陸軍一年志願兵條例施行細則 (明治二十六年七月陸軍省令第十) (廿八年廿九年及卅二年四月改正)

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

一 第一種帽前立共

第四類 第一章 陸軍一年志願兵條例施行細則

- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴二著
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手牒
- 十 背囊
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒
- 十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二様式ニ承認書ハ第三様式ニ證明書ハ第四様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ

條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ其ノ身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未滿ノ者ヲ除ク)ノ體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵署ニ送付スヘシ

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得

前項ニ依リ乙師團ニ於テ検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲師團ニ通知シ甲師團ニ在テハ其ノ師管内ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シ協議ノ上検査日時及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得

前項ニ依リ乙聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ其ノ聯隊區又ハ隊備隊區ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第六條 身體検査終レ後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ